



一粒の砂の中に世界を見  
一輪の花に天国を見るには  
君の手のひらで無限を握り  
一瞬のうちに永遠をつかめ

To see a World in a grain of sand,  
And a Heaven in a wild flower,  
Hold Infinity in the palm of your hand,  
And Eternity in an hour.

-----William Blake-----

. . . . .

古代人類から承継、  
先天的CPUに従い、

輝く頂の太陽を追って  
私達は古い世界を旅立った。

時折、運命の引き潮は  
忽ち穏やかな光を撒収し始め、

線分の集合が一致した蓋然性は、  
極小の点在地に差し掛かる。

音響の差異は二人のdoppler effect。

キミの列車は随分と先越して、  
私は呆然と未練の尻尾を見送るだけ。

例えどんなにfinenessに進んだとしても、  
未来はきっと何ひとつ変わらなかったね . . .

無限reynoldsの海は  
剽悍過ぎて1人ではきっと泳げない。

重ね合わせた手のひらに隔たる  
mental境界のガラスは溶け始め、

接触された鎖状分子同士はradicalに  
引き裂かれ、personalityは分裂する。

稠密した思考は執拗に交差し、  
翻弄に抱かれたまま、

碧落ごと視界はくるりと遮断した。

冷たい耳鳴りの中、

排斥される隔絶、  
空っぽの思考、  
不可欠な欠落。

流れる水脈は下水道へ繋がる  
排水溝の底で見るいびつな夢 . . .

残留が香る震撼のsquare . . .

追憶に縛られ、  
長い影法師引きずるように惰眠を貪る、

泥の反射に包まれた音の無い失望。

krmn渦が局地的aeolian音で、  
粘性は非可逆な属性だと、  
眠れぬ夜に耳打ちする。

繰り返し訪れる朝に傷を晒され、  
拡散したガラスのshieldを拾い集めては、

いつの日も怯えていたよ . . .

背後から強く抱きしめられた温もりの感触は、  
交感の麝香で、  
甘美な熱を残したまま絡まる憂鬱。

光と影の混在世界で、  
凍てつくように虚空を掴もうと、

陽に透ける先端の神経は、  
無秩序な明日を予測して縮小する。

大切な言葉は形骸な概念として、  
echoになりさざ波を立てては闇へ還る。

噛み合えないemulsionは、  
密度を弄るだけのblind-date。

忘却の満ち潮にかき消されて  
ゆきながら遠ざかる足音は、

途切れた足音だけを曖昧に残した  
儂いinstallation . . .

堅牢な宇宙の拘束からは離脱出来ずに、

轟く想いは過剰な不静点滅を繰り返す。

弾かれたprocessは振れた媒介で  
下降する重力potential。

愚かさで軋む専断のclinamen　・ ・

キミの瞳の奥に瞬く銀河は  
私の視点とは交わらない　・ ・

いつかは歪む有限の儚さに畏怖し、

いつの間にか信じるトを否定して、  
二人で歩くトを諦めていたよ。

雑踏に埋もれてraison detreが  
失われてしまったとしても、

Sûrement je te cherche encore　・ ・  
きっとまたキミを探してしまう。

潮流から逸脱して、  
この地球上から振り落とされて  
しまったとしても、

Je veux que tu me trouves encore une fois　・ ・  
もう一度私を見つけて欲しい。

零れ落ちる私の涙は、無口な朴念仁のbrainに  
哀しみの波紋を広げ、混和を求め浸透する。

憐憫の揚羽が永遠のobjetを描き、  
破線を紡ぐように横切ってゆく　・ ・

想いはchemicalに研ぎ澄まされて、

いつの日かsea-scapeは、

夜明けのgradationを繰り広げ、

位相空間を旅する風のロケーテッドネスが、  
のろまなprismを連れて来ると信じたい。

それは気随なつぶやきですか？

優しさ溢れる春の息吹を  
何処かで同じように感じていますか？

抽象的なrheologyで  
懇願するrecursive callは、

霧桜に迷い込んだlibidoも、  
やがて晴れる還流の中へ . . .

漸次淡くせつない折り合いの空間へ繋ぐ  
瞬く桜並木のserendipity . . .

たったひとつの儚さの美しさを  
いつかきっと知る時がくるでしょう。。  
Beauté d'un seulement vanité  
Le temps savoir sûrement un jour viendra . . .